

聖書箇所：ヨシュア記3章7～17節

説教題：神は真ん中に立つ

1 ヨシュア

(1) リーダーとしてのプレッシャー

モーセはイスラエルの民を率い四十年間荒野をさまよった後、約束の地カナンを前にして地上の生涯を閉じました。そのモーセに代わり、ヨシュアがイスラエルのリーダーに立ちます。

リーダーの交代は決して簡単なことではありません。先週、JECAの教職者会があり、いろいろな話を聞く機会がありました。ある教会は、この春牧師が定年を迎えたために新しい牧師に交代しようと準備しているのですが、いろいろ予想外のことが起きて大変苦労しているというお話がありました。また別の教会では、牧師と副牧師との間で気まずい関係が生じてしまい、大きな問題になっていると聞きました。改めてリーダーの交代は難しいものだと思われました。

ヨシュアの場合はどうだったのでしょうか。申命記34章9節には、モーセは生前、ヌンの子ヨシュアに手を置いたとあります。つまり、モーセはまだ元気である間に、後継者としてヨシュアを指名していたのです。リーダーの交代が円滑に行われるために、周到的な準備がされていたことがわかります。

しかしだからと言って、何も問題がなかったわけではありません。いつの時代でもそうですが、これまでの指導者が偉大であればあるほど、次に立つリーダーは大変なプレッシャーを受けます。「モーセはすばらしかったけれど、ヨシュアはどうなのか。」どうし

ても、人々はこんなふう比べてしまいます。たとえモーセがヨシュアを後継者に指名したとしても、一度でもヨシュアが失敗するようなことがあれば、たちまちにしてリーダーの座から転落してしまいます。

(2) 後戻りできない (13節)

リーダーとなってまだわずしかか経っておらず実績もないヨシュアを人々は信用していません。そんな中で、ヨシュアはヨルダン川をわたり、エリコの町を攻め落とし、約束の地カナンに進むという大事業を成し遂げなければなりません。ヨシュアの肩には大きなプレッシャーがのしかかります。

神はヨシュアが心細く思っていることを知り、このように励まします。「強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」ことばで励ますだけではありません。具体的な指導をしていきます。主のことばとしてヨシュアは次のように言います。13節。「全地の主である主の箱をかつぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまると、ヨルダン川の水は、上から流れ下って来る水がせきとめられ、せきをなして立つようになる。」

イスラエルの民はかつて、エジプトから脱出するとき、海の真ん中のかわいたところを渡りました。それと同じようなことが起こるとヨシュアは民の前で断言しました。

人間的な見方をするなら、こんなことを言いきってよいのかと思います。これは大きな賭です。言ったそのとおりになれば、ヨシュアのリーダーとしての地位は揺るがないものになります。しかし、もし何も起こらなかったらどうなるでしょう。ただでさえ、人々はヨシュアの指導力を疑っているのです。ヨシュアはリーダーの地位を失うだけではありません。人々の怒りを買って、殺されることになるでしょう。そんなリスクをはらんでいます。もちろん、神のご計画をそのまま語ったのですから何も問題がないと言えるのかもしれません。

それにしても、どうしてこのような大胆なやり方をするのでしょうか。少し冷めた言い方をするなら、こんなことを事前に言わなくても、奇蹟が起きるだけで目的は十分に達せられます。なぜ、ヨシュアはあえて不利と思えることをしたのか。また最後のところで触れたいと思います。

2 契約の箱

さて、ヨシュアは6節で祭司たちに次のように命じていました。「契約の箱をかつぎ、民の先頭に立て渡りなさい。」祭司たちが民の先頭に立つことについては、今日の箇所でもくどいほど繰り返されています。契約の箱は神の御臨在を象徴しています。祭司たちはその契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って進み、15、16節と続いていきます。「箱をかつぐ者がヨルダン川まで来て、箱をかつぐ祭司たちの足が水際に浸（ひた）ったとき、—ヨルダン川は刈り入れの間中、岸一杯にあふれるのだが—（中略）塩の海の方に流れ下る水は完全にせきとめられた。」

祭司たちは契約の箱をかつぎ一步一步ヨ

ルダン川に向かいます。川には水が一杯に流れています。それでもそのまま進みます。何も起きなければ、死ぬこととなります。契約の箱がまず人々の先頭に立って前に進んでいったことを思います。イスラエルの民を救うために、神ご自身が先に立ち、川を渡ります。人の肩にかつがれるという姿をとられながら、主ご自身がまっさきに死ぬ覚悟をもって進んで行かれます。

そして祭司たちはヨルダ川の真ん中のかわいた地にしっかりと立ちます。契約の箱が川の真ん中にとどまっています。その間、イスラエルの人々はかわいたところを歩いて向こう岸に渡ります。この光景を想像してみてください。まるで、神ご自身が私たちの盾となり、ついたてとなっているようです。人々が救われていくために、神ご自身が最も危険なところに立ち、私たちを守っておられます。

3 イエス・キリスト

(1) 逃げ道をふさぐ

すべては見事なまでに完璧に行われました。ヨシュアが前もって語ったとおりのことが実現しました。確かに神はヨシュアとともにおられる、と人々は知ることになり、ヨシュアは指導者として迎えられていきます。

しかし、気にかかることが一つあります。ヨシュアは、神がなさろうとしている不思議のことを前もって語りました。そのとおりになったのでよかったのですが、もしそうならなかったらどうなるのか。賢い人であれば、必ず逃げ道を確保しておきます。万が一失敗しても、身の安全が守られるようにします。その点から言えば、ヨシュアは逃げ道を用意していません。あまりにも無防備です。なぜ

でしょうか。

旧約聖書に登場する信仰者、例えばアブラハムやモーセもそうですが、ヨシュアも、後に来られる救い主の性質を反映していると考えられます。ここもそうです。主は、逃げ道をふさぎ、後戻りできないようにして前に進んで行かれます。だからヨシュアもそうします。

その実例を見ます。ルカの福音書6章に、イエスがある安息日に右手のなえた人をいやしたことが書かれています。場所は会堂でした。そこには、イエスの弱みを見つけ出し、攻撃する隙をうかがっている律法学者、パリサイ人がいます。普通ならどうしますか。この場所はあまりにも危険です。いやすというのなら、別の場所に連れて行き、だれも見えないところでこっそりとやればよいのです。ところが、イエスは堂々と律法学者、パリサイ人の前で片手のなえた人をいやします。わざと、彼らが怒り出すようなことをします。このことが、後にイエスを十字架に追いやる大きな引き金となってしまうのです。

あまりにも不用意に見えます。もっと賢く立ち回るべきではないですか。ところがイエスは、まるで逃げ道をふさいでいくようなふるまいをされます。後戻りできないように意識してそうしているように見えます。

(2) 救い

なぜでしょう。私はこのようにしか思えません。この方はご自分を十字架に追い込むために、あえて無防備と思えるような方法をとられている。十字架から逃れられないように、逃げ道をふさぐのです。後戻りできないようにするのです。十字架に向かうために、アクセルを踏み続けます。十字架が確実になるよ

うにと、あらゆる手立てを尽くそうとされません。

すべては、私たちを救うためです。契約の箱が先頭に立ちヨルダン川を渡ったように、この方は私たちの先頭に立たれます。主は危険を冒して先頭に立ちヨルダン川に入ります。川の真ん中で立ち続けてくださいます。この方が、私たちを救うために盾となり、犠牲となられます。すべての者が渡り終えるまで、この方は動こうとされません。

ヨルダン川がせき止められたこと。これは、神が起こされた奇蹟だから、神は全能の方だから、このことを淡々と行われた。そのように思いますか。

人々がヨルダン川を渡るとき、主はひとりひとりの罪を背負われたのです。罪のない方が、罪を背負い、さばきを受けようとされたのです。きよい方が罪を負う。そのことがどれほど苦しいことなのか、考えたことがあるでしょうか。私たちは、生まれたときから罪の中にありましたから、この状態が当たり前だと思っています。ほとんど麻痺してしまって何も感じません。罪の苦しさなど感じませんから、神も多分そうに違いないとどこかで思い込んでいます。

決してそんなことはありません。私たちが川を渡る間、主は川の中に立ち続けます。罪のさばきを一身に受けて、その御顔は苦しみにゆがんでいます。そのことに気がついた者はどれだけいたでしょうか。ほとんどいない。それでよかったのです。主は、人々がヨルダン川を無事に渡りきったことを見たとき、ここから満足されました。

ふだん、日々の生活をしているなかで、神が私たちのためにどんなことをしてくださっているのか、実感することはほとんどな

いでしょう。むしろ反対に、どうして神は私を顧みてくれないのか。どうして神は何もしてくれないのか。そんな不満ばかりをぶつけてしまいます。

思い起こしてください。主は、今日も、これからずっと、私たちこの川を渡りきるまで、流れをせき止めておられます。主の守りがどれほどの私たちを取り囲んでいるのか。その事を思い起こしつつ、歩んでまいります。